

奨学金制度の創設は

町長

来年度から実施できるように進める



門脇 輝明 議員

〔門脇〕平成30年9月定例会の一般質問で、Uターン促進を目的とした奨学金制度の創設を提案した。

町長は、新年度に向けて考えたいと答弁した。

検討状況と今後の見通しは。

〔町長〕奨学金の返還が必要な学生を町内企業が雇用した場合の助成制度を検討している。

来年度から実施できるように制度設計を進める。

〔門脇〕将来、地域を支える意思を持った子どもたちにしっかりと奨学金で勉強してもらおうという方向を打ち出すべきだと思う。

制度設計、採用などは、しっかりと工夫してほしい。

〔町長〕指摘のとおり、しっかりと工夫していきたい。

総合計画の見直しは

町長

令和3年度に向け見直す

〔門脇〕町政に取り組む上での総合計画の位置づけは。

〔町長〕将来の本町の姿と進む方向の基本的指針だ。

〔門脇〕基本構想で住民に、確認、参加などを求めているが、必要な情報の提供、周知は。

〔町長〕行政と住民が相互作用する取り組みを想定しているが、すべてを巻き込んだ参加には至っていない。

〔門脇〕計画の見直しが必要では。

〔町長〕修正が必要なものは令和3年度に向け見直す。



町の姿と方向を示す総合計画

人口減少対策は

教育長

3歳未満児の
保育所開設を検討



未満児対策が急がれる大山きゃらぼく保育園

〔門脇〕空き家を町が借り上げ、町営住宅として利活用する仕組みはできないか。

〔町長〕町営住宅にはできないが、近隣の町で空き家を借り上げる取り組みがある。

空き家対策の一環として制度化を検討する。

〔門脇〕3歳未満児保育希望者の増加に対応するため、大山きゃらぼく保育園の拡充は。

〔教育長〕3歳未満児は全体の4割で88人。

保育室は手狭で、未満児対象の小規模保育所開設を検討している。